



ピックアップ県立図書館

『よし、それではひとのみにしてくれるぞ!』と、トロールがどなりました。」子ども達は絵本の絵を見ながら真剣な顔でヤギとトロールの戦いの行方を見守っています。

これは、ある土曜日のおはなし会の様子です。開館後に新しく始めた事業で、毎日午後2時30分から実施し、平日は0～2歳の子どもと保護者、土日・祝日は3歳以上の子どもが対象です。

担当は、子ども読書推進担当の職員。研修後に練習を重ね、毎日交代で読みます。『ぐりとぐら』(中川李枝子/さく、大村百合子/え)など定評ある絵本を2冊選び、音やリズムが楽しいわらべうたと組み合わせます。プログラムはホームページで公開中です。

平成25年11月末までに3,247人の参加があり、毎日楽しみにやってくる親子や、パパと参加し「楽しかったね。」と笑顔で帰る子がいます。ぜひご参加ください。



サイレントルームを使うには

図書館には、書架の近くや窓際などに自由に座れる席がありますが、静かな場所で読書や調べものをしたい場合は、サイレントルームが便利です。利用の際は、館内にある座席申込端末にご自身の図書館利用カードを差し込んで利用申し込みをください。画面の指示に従って座席を指定し、利用票(レシート)を出力します。利用中は、利用票を座席に提示してください。1回の申し込みで3時間まで利用できます。続けて利用したい場合は、再度申し込みをください。利用時間の途中で帰る場合は、次の方のために利用終了手続きをお願いします。満席の場合は、予約も可能です。

長時間席を空けたり、申し込みをせずに利用すると他の方のご迷惑になりますので、必ず申し込みをしてからお使いになり、利用終了時間になりましたら速やかに退室をお願いします。



阿刀田 高館長よりご挨拶

読書を愛してくださいー新年度を迎えるにあたってー

ありがとうございます。2014年4月、新年度を迎えるにあたって、まず申し述べたいのは、県民諸氏に対して、とりわけ図書館の利用者に対して、関係者に対して、図書館の職員に対して心からの御礼を申し述べたい。

そのうえで、負けず劣らず読書を愛してほしいと訴えたい。読書、本、新聞、出版界、図書館、たがいに深く関わりあっていることが、今、一つの曲がり角に直面している。読書離れはずいぶん前から叫ばれているが、このすばらしい営みを簡単に低迷させてよいものだろうか。知識を蓄え、思索を深くし、楽しみとしても極上の文化を今後どう若い世代に伝えていくか、広く・深く、本気で考えていかねばなるまい。そして、もう一つ、昨今の重大問題は、ここ10年前から10年先にかけて熟慮しなければならないこと、それはIT機器の普及に対して、紙を主軸にして享受されてきた読書を、本の文化を、出版という事業を、図書館や町の書店の仕事をどう存続させ、有効に機能させるか、まだ答の見えない難問がある。それを語る紙数はないが、図書館からは「利用者の皆さん、どうか図書館を無料の貸本屋と考えるなでください。」と切に訴えたい。ありていに言えば「今、町の書店で入手できる資料については(それなりの経済力があることを前提として)どうか本屋で購入してください。」ということだ。そして図書館員には、どういう蔵書構成が図書館にとって本当の使命なのか、それを計るスキルを養ってほしい、と願いたい。



Information

イベント案内

- 「林真理子氏講演会」 3月22日(土) 午後2時～
- 「こどもにすすめたい本 2014」展示 4月23日(水)～5月11日(日)
- 「疎開した40万冊の本」上映会 5月10日(土)
- 「山根基世氏朗読会」 6月28日(土)

編集後記

お探しの資料を当館が所蔵していない時は職員にご相談ください。所蔵している図書館を探し、そこから借り受けることでご提供できる場合があります。これは「相互貸借」というサービスです。特に山梨県内の公共図書館間ではネットワークシステムを活用し、円滑な資料提供ができるよう努めております。ぜひ調査研究にお役立てください。

(企画振興担当 岩間しのぶ)

事業報告

朗読会

かいぶらり朗読の集いー筒井真理子氏朗読会

[10月13日]

甲府市出身の女優、筒井真理子さんを招いて朗読会を開催しました。この日は筒井さんの誕生日だったということもあって、幼馴染みの人たちも駆けつけ、開場前の多目的ホールには長蛇の列ができました。今回は太宰治の「新樹の言葉」、石垣りんの詩とエッセイ、筒井さんの好きな作品ということで中島敦「狐憑」を朗読していただきました。筒井さんの時折身振りを交えた美しい朗読をお楽しみいただきました。



1周年
記念事業

開館1周年記念事業ー 浅田次郎氏講演会・トークショー [11月17日]



開館1周年記念事業として、平出亘山梨県副知事、高野孫左エ門教育委員長より祝辞をいただいたあと、作家浅田次郎氏の講演会とトークショーが行われました。

「読むこと、書くこと、生きること」と題した講演会は、小説執筆のための取材の方法や執筆にまつわる話、幼いころからの読書の楽しみ方などを軽妙な語り口でわかりやすく話していただき、時には笑いがおこる楽しい講演会となりました。また、若者には読書の楽しさや大切さを知ってほしいとのことでした。

講演会に続いて、瀧田武彦教育長をコーディネーターに浅田次郎氏と阿刀田館長のトークショーが行われました。直木賞選考の話や作家生活のこと、読書すること、文化のとらえ方などが、日頃から交流のあるお二人ならではの和やかなやりとりの中で語られました。この日を楽しみにされていた参加者からも、現在活躍されている作家の話を知ることができてとてもよかったと、好評をいただきました。

入館
100万人

入館者100万人達成！ [11月20日]

平成25年11月20日、一昨年11月の開館以降1年余りで山梨県立図書館の入館者が100万人となりました。年間の入館者数は全国都道府県立図書館のなかでもトップクラスになります。

達成を記念し、100万人目の入館者となられた笛吹市在住の親子3人に、阿刀田館長のサイン入り著書などの記念品を贈呈しました。

日頃ご来館いただいている全ての利用者に対し感謝するとともに、今後とも誰でも気軽に利用できる「県民図書館」の構築に努めて参ります。

展示
講演会

世界の子どもの本展～IBBY*がすすめる世界の児童書208冊～ *International Board on Books for Young People (国際児童図書評議会) [1月18日～25日]



一般社団法人日本国際児童図書評議会主催の企画に協力する形で、世界各国のIBBY支部が推薦する児童書のリスト「IBBYオーナーリスト」掲載作品と、子どもの本の国際賞である「国際アンデルセン賞」受賞作家の本を展示しました。来場者からは「言葉や絵の違いを楽しんだ」という声が聞かれました。

また、1月19日(日)にはオーナーリスト掲載作品を翻訳された斎藤倫子氏による講演会「本との出会い」を開催し、ご自身の経験をもとに読書の楽しさをお話していただきました。

館長
連続講座

かいぶらり教養セミナー 阿刀田館長連続講座『短編小説を読む』 [10月12日～3月15日]

阿刀田館長が自身で企画し、講師を務める連続講座の第2期を、平成25年10月から平成26年3月まで毎月1回開催しています。「短編小説を読む」をテーマにこれまで志賀直哉「城の崎にて」、松本清張「張込み」などを取り上げ、阿刀田館長ならではのユニークな視点から解説していただきました。多数の応募の中から当選した120名が受講し、時折笑い声上がる和やかな講義に加え、活発な質疑応答が交わされています。

資料展示
報告

情報サテライト1・2 資料展示報告

- 1 「甲州財閥と鉄道」 【8月1日～9月29日】
- 2 「富士の国やまなし国文祭ーフィナーレに向けて」
【10月1日～11月10日】
- 3 「図書館を知る、図書館を使うー山梨県立図書館
1周年記念事業」
【10月2日～1月30日】
- 4 「交流展示宇佐市民図書館・佐賀県立図書館」
【11月12日～12月27日】
- 5 「深沢七郎 生誕100年」 【1月7日～2月16日】
- 6 「日本の『食』を考える」 【2月1日～3月13日】
- 7 「飛躍～ヴァンフォーレ甲府開幕戦関連展示」
【2月18日～3月9日】



やまなし読書人 ー山梨県民の図書館を目指して

若尾直子さん(山梨県図書館協議会・山梨まんまくらぶ代表)

2007年5月、山梨県立図書館リニューアルのための検討委員会(山梨県新県立図書館整備検討委員会)が設置され、場所の検討をはじめ、山梨県にふさわしい県立図書館のあり方を11名の委員で検討した。私は利用者の一人として委員に任命され、固定的な図書館のイメージをはるかに超えた意見を述べてきた。例えば「活字に頼らない情報収集と情報発信の場」であってほしいこと、「紙を媒体としなくても、人が集まる場」にしてみたい、「集まった人がネットワークを構築できる場」でありたいなどなど……。そして、山梨県が世界に発信したいことは図書館から発信し、すべての県民にとって開かれた図書館でありたい……。

「寝食を忘れるほど夢中になれるものがある」山梨県立図書館はそんな楽しみを応援する場。

2012年11月11日、山梨県立図書館がオープンした。県都甲府の駅から徒歩3分の好立地で、ユニバーサルデザインの視点でも概ね考慮できた仕様になっている。文化の醸成は地域を健康にする。富士山が世界文化遺産に登録されたこととあいまって、山梨県はますます素敵になるに違いない。